

# 四半期報告書

(第36期第1四半期)

自 2018年4月1日

至 2018年6月30日

**株式会社カネミツ**

兵庫県明石市大蔵本町20番26号

(E02248)

## 表紙

## 第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

- |               |   |
|---------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容       | 1 |

## 第2 事業の状況

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 事業等のリスク                          | 2 |
| 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 2 |
| 3 経営上の重要な契約等                       | 3 |

## 第3 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| (1) 株式の総数等                    | 4 |
| (2) 新株予約権等の状況                 | 4 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 4 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移           | 4 |
| (5) 大株主の状況                    | 4 |
| (6) 議決権の状況                    | 5 |

- |          |   |
|----------|---|
| 2 役員等の状況 | 5 |
|----------|---|

## 第4 経理の状況 6

## 1 四半期連結財務諸表

- |                              |    |
|------------------------------|----|
| (1) 四半期連結貸借対照表               | 7  |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 9  |
| 四半期連結損益計算書                   | 9  |
| 第1 四半期連結累計期間                 | 9  |
| 四半期連結包括利益計算書                 | 10 |
| 第1 四半期連結累計期間                 | 10 |

- |       |    |
|-------|----|
| 2 その他 | 13 |
|-------|----|

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 14

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2018年8月9日
【四半期会計期間】	第36期第1四半期（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）
【会社名】	株式会社カネミツ
【英訳名】	KANEMITSU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金光 俊明
【本店の所在の場所】	兵庫県明石市大蔵本町20番26号
【電話番号】	(078) 911-6645 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 金光 秀治
【最寄りの連絡場所】	兵庫県明石市大蔵本町20番26号
【電話番号】	(078) 911-6645 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 金光 秀治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第1四半期 連結累計期間	第36期 第1四半期 連結累計期間	第35期
会計期間	自2017年4月1日 至2017年6月30日	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2017年4月1日 至2018年3月31日
売上高 (千円)	2,388,570	2,324,378	9,494,353
経常利益 (千円)	348,025	268,715	973,086
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	242,032	201,324	731,153
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	250,635	127,432	883,832
純資産額 (千円)	8,439,332	9,079,792	9,019,280
総資産額 (千円)	12,449,613	12,958,903	13,048,112
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	47.33	39.37	142.99
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	65.6	68.0	67.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な保護主義の台頭等により先行き不透明感はあるものの、好調な企業業績を背景に、設備投資や雇用環境の改善が進み、穏やかな回復基調で推移しました。

自動車業界におきましては、登録車の需要低迷から、国内の販売台数は前年同期比わずかに減少しました。

このような経済状況のもとで、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の売上高は2,324百万円（対前年同四半期64百万円減少[△2.7%]）となりました。利益面では、営業利益263百万円（対前年同四半期91百万円減少[△25.8%]）、経常利益268百万円（対前年同四半期79百万円減少[△22.8%]）、親会社株主に帰属する四半期純利益201百万円（対前年同四半期40百万円減少[△16.8%]）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

日本は売上高1,500百万円（対前年同四半期109百万円減少[△6.8%]）、営業利益107百万円（対前年同四半期98百万円減少[△47.6%]）となりました。東南アジアは売上高585百万円（対前年同四半期50百万円増加[9.5%]）、営業利益56百万円（対前年同四半期22百万円増加[66.6%]）となり、中国は売上高318百万円（対前年同四半期3百万円減少[△1.2%]）、営業利益83百万円（対前年同四半期7百万円減少[△7.8%]）となりました。

当第1四半期連結会計期間末における総資産は12,958百万円となり、前連結会計年度末に比べ89百万円の減少となりました。流動資産は65百万円減少しましたが、主として現金及び預金の増加62百万円、受取手形及び売掛金の減少101百万円、仕掛品の増加15百万円、その他の減少38百万円等によるものであります。固定資産は23百万円減少しましたが、主として建物及び構築物の減少39百万円、機械装置及び運搬具の減少108百万円、関係会社株式の増加116百万円等によるものであります。

負債は3,879百万円となり、前連結会計年度末に比べ149百万円減少しました。流動負債は38百万円減少しましたが、主として支払手形及び買掛金の減少39百万円、賞与引当金の減少54百万円、役員賞与引当金の減少12百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加6百万円、その他の増加61百万円によるものであります。固定負債は111百万円減少しましたが、主として長期借入金の減少43百万円、繰延税金負債の減少36百万円、その他の減少30百万円等によるものであります。

純資産は9,079百万円となり、前連結会計年度末に比べ60百万円増加となりましたが、主として利益剰余金の増加139百万円、その他有価証券評価差額金の減少12百万円、為替換算調整勘定の減少56百万円、非支配株主持分の減少9百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は68.0%となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、36百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,000,000
計	17,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2018年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2018年8月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	5,119,477	5,129,577	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株 であります。
計	5,119,477	5,129,577	—	—

- (注) 1. 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。  
2. 2018年7月20日付で金銭報酬債権(9百万円)を対価に譲渡制限付株式報酬としての新株式(10,100株)を発行しております。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2018年4月1日～ 2018年6月30日	—	5,119	—	551,099	—	445,219

- (注) 2018年7月20日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬としての新株式発行により、発行済株式総数が10,100株、資本金及び資本剰余金がそれぞれ4百万円増加しております。

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2018年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

### ①【発行済株式】

2018年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 6,200	—	単元株式数100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,111,100	51,111	同上
単元未満株式	普通株式 2,177	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	5,119,477	—	—
総株主の議決権	—	51,111	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式49株が含まれております。

### ②【自己株式等】

2018年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
(自己保有株式) 株式会社カネミツ	兵庫県明石市 大蔵本町20-26	6,200	—	6,200	0.12
計	—	6,200	—	6,200	0.12

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2018年4月1日から2018年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,071,657	2,133,906
受取手形及び売掛金	2,089,702	1,988,273
電子記録債権	589,870	582,769
商品及び製品	100,458	92,616
仕掛品	392,820	408,452
原材料及び貯蔵品	73,310	84,143
その他	104,284	66,052
流動資産合計	5,422,104	5,356,213
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,488,088	3,473,500
減価償却累計額	△1,691,857	△1,716,749
建物及び構築物（純額）	1,796,230	1,756,751
機械装置及び運搬具	7,964,754	7,823,543
減価償却累計額	△5,786,160	△5,753,909
機械装置及び運搬具（純額）	2,178,594	2,069,633
工具、器具及び備品	1,070,883	1,083,852
減価償却累計額	△874,381	△886,413
工具、器具及び備品（純額）	196,502	197,438
土地	2,131,519	2,130,146
建設仮勘定	374,219	391,075
有形固定資産合計	6,677,066	6,545,046
無形固定資産	100,945	116,749
投資その他の資産		
投資有価証券	639,466	622,899
関係会社株式	86,661	203,597
その他	121,869	114,397
投資その他の資産合計	847,996	940,894
固定資産合計	7,626,007	7,602,690
資産合計	13,048,112	12,958,903

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,056,769	1,017,502
短期借入金	797,603	785,624
1年内返済予定の長期借入金	142,498	149,141
未払法人税等	103,684	114,784
賞与引当金	156,666	102,123
役員賞与引当金	16,452	4,410
その他	766,399	827,877
流動負債合計	3,040,074	3,001,465
固定負債		
長期借入金	382,186	338,823
長期未払金	46,380	46,380
繰延税金負債	211,561	175,443
退職給付に係る負債	246,914	245,834
その他	101,713	71,162
固定負債合計	988,757	877,645
負債合計	4,028,831	3,879,111
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	551,099	551,099
資本剰余金	445,219	445,219
利益剰余金	7,201,257	7,341,223
自己株式	△6,686	△6,686
株主資本合計	8,190,890	8,330,856
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	251,713	238,835
為替換算調整勘定	301,835	245,256
その他の包括利益累計額合計	553,549	484,091
非支配株主持分	274,841	264,843
純資産合計	9,019,280	9,079,792
負債純資産合計	13,048,112	12,958,903

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	2,388,570	2,324,378
売上原価	1,641,812	1,680,801
売上総利益	746,758	643,576
販売費及び一般管理費	391,077	379,606
営業利益	355,680	263,970
営業外収益		
受取利息	723	1,158
受取配当金	4,531	5,400
持分法による投資利益	—	2,852
その他	3,105	2,484
営業外収益合計	8,359	11,895
営業外費用		
支払利息	6,413	4,495
持分法による投資損失	8,805	—
為替差損	796	2,618
その他	0	37
営業外費用合計	16,015	7,151
経常利益	348,025	268,715
特別利益		
固定資産売却益	1,597	1,649
特別利益合計	1,597	1,649
特別損失		
固定資産売却損	509	576
固定資産除却損	9	0
特別損失合計	518	576
税金等調整前四半期純利益	349,103	269,787
法人税、住民税及び事業税	110,674	96,752
法人税等調整額	71	△29,258
法人税等合計	110,746	67,493
四半期純利益	238,357	202,293
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,675	969
親会社株主に帰属する四半期純利益	242,032	201,324

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	238,357	202,293
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,497	△12,878
為替換算調整勘定	△14,934	△58,286
持分法適用会社に対する持分相当額	714	△3,695
その他の包括利益合計	12,277	△74,861
四半期包括利益	250,635	127,432
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	255,555	131,867
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,920	△4,434

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
減価償却費	172,117千円	163,702千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自2017年4月1日 至2017年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年6月22日 定時株主総会	普通株式	61,359千円	12.00円	2017年3月31日	2017年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月21日 定時株主総会	普通株式	61,358千円	12.00円	2018年3月31日	2018年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2017年4月1日 至2017年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	東南アジア	中国	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,555,937	510,073	322,559	2,388,570	—	2,388,570
セグメント間の内部売上高又は振替高	54,056	24,306	—	78,363	△78,363	—
計	1,609,993	534,380	322,559	2,466,933	△78,363	2,388,570
セグメント利益	206,221	33,719	90,739	330,680	25,000	355,680

(注) 1. セグメント利益の調整額25,000千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△9,185千円及び報告セグメント間の取引の相殺消去等34,185千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	東南アジア	中国	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,454,494	551,238	318,645	2,324,378	—	2,324,378
セグメント間の内部売上高又は振替高	45,543	33,823	—	79,366	△79,366	—
計	1,500,038	585,061	318,645	2,403,744	△79,366	2,324,378
セグメント利益	107,998	56,173	83,620	247,792	16,178	263,970

(注) 1. セグメント利益の調整額16,178千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△10,988千円及び報告セグメント間の取引の相殺消去等27,166千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	47円33銭	39円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	242,032	201,324
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	242,032	201,324
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,113	5,113

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

2018年8月6日

株式会社カネミツ  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊東 昌一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 樋野 智也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社カネミツの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2018年4月1日から2018年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社カネミツ及び連結子会社の2018年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。